

【元禄9年・1696】記 載 事 項

1/2 諸士御目見、花巻御役人毛馬内蔵人太刀折紙で御礼

1/6 花巻城代高野庄兵衛、年始に目見え

1/11・鳥討、花巻城廻は中野重内と地討の雫石弥右衛門、和賀通は地討の坂水善右衛門

- ・寺林代官交代、浦上十太夫→大川平右衛門
- ・鬼柳代官交代、上田多太夫→柴内恒右衛門
- ・大迫代官交代、飯岡庄兵衛→下田十右衛門

1/15 花巻丹内不動別当、目見え

1/17・二子通代官交代、鬼柳清右衛門→一方井庄太郎、八幡通代官交代、富沢六右衛門→苦米地長左衛門

- ・安俵通代官交代、太田原平右衛門→中村次郎右衛門

1/21 領内代官へ指令 ①救助米の支給、②徒党や夜盗の取締り、③他藩の通行者は送り返す(2月27日所轄内における田の仕付け監視を追加指令)

2/5 黒沢尻町伝吉、喜右衛門、小三郎、手廻9人で欠落

2/6・花巻御給人堀内甚九郎の婿養子に金田一弥次助(伝右衛門子)、三田金の丞養子に煤孫村の市之助(嘉兵衛子)

- ・名跡、小田代久兵衛→弟・又右衛門(相続以前又右衛門へ支給の5駄2人扶持取上げ)
- ・花巻三御町へ旅籠役50貫目(1人70文)を春暮の2回納入の指令
- ・花巻山伏30人へ、救助米20駄貸与の代りに蔵米10駄相当の金4両3歩貸与

2/8 横川目村小十郎手廻2名、北鬼柳村孫市手廻2人、2日の夜に欠落

2/10・鬼柳御検断左近へ黒沢尻相場米10駄を合力(救助)米として支給

- ・花巻諸職人30人へ救助金1両3歩と1貫20文を貸付(1人300文)
- ・花巻御蔵米(直段10駄分、金4両3歩借用)、山伏30人

2/19・岩崎の定番坂水又兵衛宅へ2、30人盗賊押入り・伴金右衛門、郡山花巻通御用に派遣

2/20 北九兵衛宣継、前月21日から痰咳煩いこの日未刻に病死(九兵衛判形、御納戸へ納入)

2/21 花巻と郡山へ伴金右衛門を派遣し、代官への指示を徹底する

2/28 花巻光林寺とその弟子・東湯院、御目見、

3/4 花巻へ派遣の御鷹匠舟越久兵衛、宿で自害(花巻町奉行ら見分、城代報告)

3/7・二子村彦右衛門手廻3人、3月1日晩に欠落。また小通村仁兵衛手廻4人、2月26日晩に欠落

3/11・米価を制限、花巻・黒沢尻御蔵米10駄を6両1歩、町村で1升35文とする

- ・岩崎村川原嘉右衛門、山口村万右衛門、籠舎入り(挙動不審により)

3/12 横志田村中村の与次兵衛、笹間村片子沢の弥兵衛、下鬼柳村惣四郎、牢屋入り(挙動不審により)

3/22 仙台領で乞食し街道筋に臥す二子村平三郎、発見されて二子村三右衛門へ送り届けられる

3/26 跡目相続、花巻御給人一条権太郎→子の弥内(4月28日御目見え、20匹納入)

3/28 堀内弥次助(花巻御給人堀内甚九郎養子)と三田牛之助(三田金の丞養子)、初御目見

4/9 花巻城下御鳥討雫石弥右衛門の鉄砲判等上る

4/10 和賀通御鳥討坂水善右衛門御鑄判等上る

4/17 高木通代官交代、長坂二郎兵衛(病死)→小野寺惣右衛門

4/19・北九兵衛の遺品、幸景刀献納される。・煤孫山守、8人から5人に削減(山奉行坂水又兵衛吟味、木数減少のため)

4/22 光林寺の遊行上人相続、後住に弟子の東湯院存問

4/23 万丁目通湯口村水呑百姓才三郎手廻4人、同11日欠落

5/4 花巻城代、端午の祝いに干鰯3枚と湯蕨10把を献納

5/9 照井与五右衛門、御物書解任、花巻で出仕の指令(花巻から通勤を考慮)

5/10 跡目相続、花巻御給人小田代久兵衛→養子・又八右衛門(50石)

5/11・花巻与力鈴木久助の畑返(小山田村)を認可、軍役50石となる。・花巻三町、夏の真綿と紬他領へ出荷を認可(真綿40貫に金1両、紬100反に2歩の役金を課税)、出荷証文は花巻で発行。

5/15 振駒役人、郡山と花巻へ山元嘉右衛門派遣

6/10 江戸下屋敷破損奉行交代、宮野与左衛門→田鍬源左衛門

6/17 黒沢尻町太兵衛手廻6人、同12日に欠落

6/25 花巻川口町馬宿茂兵衛、同22日夜馬3頭押収(馬引きは逃亡)

7/7 鳥討、花巻は中野十内と雫石弥右衛門、和賀通は坂水善右衛門

7/18 かたくり、将軍家に土用の機嫌窺いとして献上

8/9・高屋権之丞の知行所(岩崎村・上鬼柳村で計37石)33石分の畑返を認可。・東禅寺の要請に応じ、南宗院(南部利直)遺骨を改葬する

8/22 南部家直の廟所を三戸法泉寺の一角に設ける

【元禄9年・1696】記 載 事 項

- 8/24 花巻四日町助次郎と伝七へ少女2人駆け込み(2人は大館で人買いに遭遇、花巻に入って逃亡したもの、八日町町人へ預けられる)
- 9/15 神山市内と羽黒堂東右衛門の畑返し切添新田を認可
- 9/28 昆喜右衛門に米30俵下賜(凶作で救助活動に専念した功勞)
- 10/9 花巻城代高野庄兵衛、美濃魚3本持参**
- 10/15 戸来治五右衛門と小山田善左衛門、小田代亦右衛門の畑返し切添新田を認可(5年間の年貢免除)
- 10/21 土仏観音持参の寺林の大興寺へ、米5駄下賜
- 10/23 花巻新御蔵奉行交代、山屋三右衛門と太田半次郎→新渡戸九助と工藤甚平
- 10/24 仙台領水沢町喜兵衛と久兵衛、秋田領から少女2人を連れて花巻で1泊、通行証文不所持で欠落(少女は鹿角番所經由で返送)
- 10/25 花巻御給人羽黒堂藤右衛門、切添出高により150石 花巻与力煤孫治兵衛、畑返し認可(加増となる)
- 11/23 八幡通葛村助三郎手廻8人と万丁目通南万丁目村新助5人、同10日夜欠落(花巻城代報告)**
- 12/13 来春の江戸御供、上屋敷台所に柏葉半右衛門、下屋敷台所に小島源右衛門(柄内金左衛門と交代)、下屋敷破損薪奉行に鈴木伝右衛門、任命
- 12/19・花巻御給人伊藤次郎右衛門、畑返し高を知行へ加え130石 ・平沢万右衛門、畑返し高を知行へ加え38石
余 ・花巻鳥見の跡目相続、田中長兵衛→田中長助(5駄2人扶持) ・跡式、上田十兵衛→孫・市兵衛(5駄2人扶持)
・宗門改 稗貫郡21097人、和賀郡23632人、花巻町4,960人
- 12/28 花巻城代、御歳暮(塩引3尺・串柿3連・干蕨10把)を献納**
- ※ 追加 『花巻市史 年表編』では
- 7月 国中で餓死者34,000人余り
- 9/8 朝鮮人8名、江戸上りの途中、川口町治右衛門宅に宿泊

【元禄10年・1697】記 載 事 項

- 1/2 花巻御役人高野庄兵衛太刀折紙で御礼、諸士御目見
- 1/6 花巻御給人上田壺兵衛、継目御礼
- 1/11・鳥討、花巻は中野十内と雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門
・八幡通代官交代、鵜飼勘三郎→七戸儀右衛門
・笹間通代官交代、津島弥九郎→遊座善七
・黒沢尻代官交代、笹木三郎兵衛→戸来六右衛門
・高木通代官交代、伊藤七右衛門→江刺ケ(家)彦太夫
・鬼柳代官交代、小山田善左衛門→照井与五右衛門
・万丁目代官交代、簡作右衛門→平賀市郎右衛門
- 1/11・大迫代官交代、山屋勘左衛門と平原庄兵衛→宮沢源七と栗谷川八兵衛
- 1/15 花巻御給人羽黒堂藤右衛門、御目見え
- 2/18・花巻信楽寺後住に高松寺、高松寺後住に光勝寺
・花巻御給人四戸平兵衛の切添普請願い、櫛引十兵衛の畑返し切添出高(31石)、同与力才藤 新介の畑返し切添出高(22石23)を認可
・名跡、乙部甚平→同甚太郎(養父甚十郎の実子)
- 閏2/5 破損の大興寺再建に土仏観音の開帳を申請し認可(盛岡の材木町永祥院で土仏観音の開帳を計画)。
- 閏2/7・二子村助十郎、手負黒鶴を届出、褒美に鳥目50疋
・**花巻城代毛馬内蔵人、丸太(魚)2持参し戻る**
- 閏2/7 国絵図役人に御勘定頭の昆喜右衛門らを任命
- 3/2 花巻昌観寺、破損修復の関係で、後住に弟子厚恩(光恩)
- 3/16・折居通慶、花巻の外科治療に召出される(2人扶持) ・内堀民部と飯富良通、台で湯治
- 3/27 殿様、花巻1泊(4月9日江戸着)
- 4/7 小鬼柳村作之丞・太郎の父子、山で行方不明(妻・たいは、古切支丹の沼野作の孫で、花巻川口町十郎左衛門娘、黒沢尻新町検断らの報告を江戸へ)
- 4/26 花巻御給人柏葉清右衛門の孫、半介(23歳)3月13日出奔
- 5/3 花巻城代、端午の祝儀に干鱈3枚と湯蕨10把を献納**
- 5/11 かたくり粉、江戸送り
- 5/18 花巻町の金銀両替を川口町又兵衛に申付け

6/7 小督様の呼称、御袋様に変更

6/18 花巻で前日夜の大雨で堰決壊し、一日市町と四日町大洪水(愛宕町5軒、雄山寺門前3軒倒壊、四日町で幅5間に長さ12間、深さ5尺余掘り濁流を流し対処する) 注-「花巻年契」では、6月13日とし、大雨水こうけんじ沢から花巻両町へ水押し上げる。

6/24 白畑村久五郎の子、狼に襲われ死去

7/1 黒沼村で左助と孫十郎、狼を討殺

7/7 鳥討、花巻中は中野重内と雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門

7/12 荒木田村の沖弥一右衛門知行所、伝馬所用地に撤収され、代替地を支給

7/28・花巻御与力小田嶋勘之丞、跡目相続(18石2余)

・花巻などの御取次役に佐々木三郎兵衛と川口清太夫を派遣

8/2 和賀川普請奉行に田中久太夫と花巻御給人戸来治五右衛門を任命

8/29 信楽寺、泊瀬へ移住のため暇願い

9/2 花巻と黒沢尻へ江戸廻米を指令(徒目付の木村権左衛門を派遣)

10/3 伴金右衛門、台への湯治を願い

10/15 石鳥谷山見の仁左衛門、不調法により処罰を若輩により免除(御山八分目から上の伐採が厳禁の処見分しなかったことを咎められ)

10/29 鬼柳通山口村と煤孫村の村人、水沢銅山で同5日失踪

12/12 酒屋運上、銭徴収により礼金廃止(幕府の方針で酒運上の5割増指令にとまなう)

12/22 花巻高松寺の後住、認可(10石、同29日三戸恵光院の専京が就任)

12/26 花巻城代、御歳暮に鮭塩引3本と串柿3連、干蕨5把を献納

※ 追加 『花巻市史 年表編』では

9/27 この年より初鱈上がる

【元禄11年・1698】記 載 事 項

1/11 鳥討、花巻は中野十内と雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門

1/21 黒沢尻代官交代、小森林与五左衛門→四戸庄助(相役・戸来六右衛門)

2/27・跡目相続、照井源右衛門→同与右衛門(21石6)

鈴木四郎→卯之助3人扶持(幼少により50石没収される)

・黒岩村白山寺の後住に八幡寺弟子の惣持院

3/10 跡目相続、菊池門左衛門→八右衛門(10駄)

岩間七兵衛→左市右衛門(26石、なお相続前の左市右衛門の6駄2人扶持は没収)

3/21・鬼柳通山口村の百姓5人、氷稲で花巻籠舎のところ耕作のため放免

・光源院(行信娘の汐子)道具、江戸から船にて盛岡へ移送、受取りに花巻の小山田善左衛門と太田半次郎派遣される(5月27日石巻から戻る)

4/16 寺林通松林寺村で狼の被害につき、狼の討取

4/20 花巻御鳥討雫石弥右衛門177羽、和賀郡御鳥討坂水善右衛門156羽討取の報告

【元禄11年・1698】記 載 事 項

5/4 花巻城代、端午の祝儀に干鱈3枚と湯蕨10把を献納

5/12・殿様、花巻へ午の刻御着(同2日江戸発、同13日盛岡着) ・岩間左市右衛門(殿様御中小姓)、跡目相続に伴い、切米2人扶持と親跡目26石取上げられ、25駄で所代官支配となる

5/23 公儀へ献上の片栗粉(6斗8升)、宰領臼井仁右衛門ら江戸上り

6/5・花巻御給人小原平十郎と小野寺山三郎、功勞で2駄ずつ加増

・名跡願、柏葉清右衛門→末子の清之丞、岡市郎右衛門→次男の甚助

・大沢伝十郎、養子与四郎を離縁し実父の岩間左市右衛門へ戻す

6/12 光源院様、花巻1泊(5月28日江戸発、前日11日鬼柳昼休み、12日盛岡の大沢川原屋敷入り)

6/13 江戸御金奉行交代、金田一久左衛門→田頭太左衛門

6/25 花巻松林寺地藏祭、警護に町奉行藤根五郎左衛門と代官奥寺孫兵衛を派遣

7/7 鳥討、花巻は雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門を任命

7/13 和賀川御普請奉行北川新左衛門、飯田三郎兵衛任命

7/17 瑞興寺の関如仙、腫物煩いにより治療

7/23 郡山と花巻の御取次役に川口清太夫を派遣(7月21日付)

7/29 花巻、同26日の雨で10年以来の洪水、花巻城廻では土手多少の損傷に留まる

- 8/4 春木奉行交代、人首恒右衛門→村井儀右衛門
- 8/22・跡目相続、羽黒堂八左衛門→子・勝右衛門(100石)
- ・婿養子、高橋弥左衛門次男新助→大沢伝十郎婿養子
 - ・花巻御鳥見和田半左衛門、病気で鳥見役解任(子の重助を鳥見に召出し)
- 9/4 花巻一日市町長作宅へ仙台出身の少女駈込み(秋田の扇田町で拘引)
- 9/15 花巻御給人羽黒堂藤左衛門、跡式御礼に鳥目20疋納入
- 9/22 松前志摩様、参勤上りで花巻宿泊(町奉行上田八十右衛門報告)
- 10/5・花巻本蔵奉行交代、大沢甚右衛門と松岡三太夫→舟越伊助と神山市内
- ・黒沢尻蔵奉行交代、船越清助と蛇口次郎左衛門→蛇口甚右衛門と戸来治五右衛門
- 10/11 瀬戸物焼万右衛門、煎茶々椀を献上
- 10/15・黒沢尻代官交代、舟越清助と蛇口次郎左衛門→蛇口甚右衛門と戸来治五右衛門
- 10/29 宗門改 稗貫郡28970人 和賀郡25439人 (花巻町人口は不明)
- 11/9・婿養子願い、高橋四郎左衛門三男の久膳→鈴木伝右衛門娘婿
- ・花巻御給人糠塚猪之助、命令により盛岡城下へ移住
- 11/25 婿養子願い、煤孫村縫殿三男の吉之丞→金田一忠之尉婿養子
- 12/15 羽黒堂勝右衛門へ、来春江戸供上りの命令
- 12/18 花巻城交代、毛馬内蔵人(20日付で御用人就任)→檜山五右衛門
- 12/19 花巻町奉行交代、羽黒堂勝右衛門→藤根五郎左衛門(相役・戸来治五右衛門)
- 12/20 岩間治右衛門、病氣療養のため、花巻へ移住
- 12/22 花巻御給人門屋新三郎弟の茂助、南部主税様に出仕
- 12/24 八幡通代官交代、久慈伝助→村木治部左衛門(相役・苫部地長左衛門)
- 12/25 花巻城代、御歳暮に塩引3本と串柿3連、干蕨10把を献納
- ※ 追加 『花巻市史 年表編』では
- 4/1 豊沢橋の渡り初め、一日市の権右衛門夫婦ら12名

【元禄12年・1699】記載事項

- 1/7・江戸下屋敷破損奉行鶴飼勘三郎→富沢六左衛門、江戸下屋敷山奉行谷地孫衛門→鬼柳清右衛門
- 1/11 鳥討、花巻は中野十内と雫石弥右衛門、和賀は坂水善左衛門
- 1/13 花巻城代人檜山五右衛門、御目見え(高野庄兵衛は15日こ)
- 1/18・高木通代官交代、長牛弥四郎→畑中久右衛門
- ・鬼柳通代官交代、坂水四郎兵衛→神尾権太夫
 - ・大迫代官交代、下田十(右)衛門→中野吉左衛門
- 1/23 国絵図製作の昆喜右衛門へ、飯米として蔵米20俵を支給
- 2/11 花巻刈屋沢一里の甚三郎、御鷹鷹の肉切り取りと持参遅延で不届きの処分、一里支配の甚右衛門には遠慮の処分(同23日甚三郎成敗)
- 2/28 松前志摩守下向、前日27日花巻1泊
- 2/29 花巻城代高野庄兵衛、美濃魚とくき各1本を持参
- 3/4 立花村佐藤右衛門、親孝行により褒美米5駄を下賜される
- 3/13 花巻城代檜山五右衛門、丸太(魚)2本持参
- 3/19・名跡、小野寺惣右衛門→次男惣吉
- ・跡目相続、花巻御鳥見久慈権七→子宮之助(5駄2人扶持)
 - ・岩間助右衛門次男の藤助、同治右衛門の養子
 - ・藤根五郎左衛門、切米37駄片馬→8人扶持と切米13駄片馬
 - ・羽黒堂勝右衛門及び藤右衛門、姓を松川氏に改める
 - ・花巻瑞興寺隠居、後住に大萱生の龍元寺
- 3/21・京都岡崎屋敷番人交代、藤寺権兵衛→松川藤右衛門(5月11日出立)。
- ・松川勝右衛門、道中仮御目付
- 3/25 花巻御与力煤孫治兵衛の伴、覚右衛門失踪
- 4/1 殿様、花巻1泊(同12日江戸着)
- 4/5・国絵図完成につき、役人へ祝儀、狩野良信へ銀子3枚、狩野安仙へ銀子2枚、良信弟子弥兵衛へ500疋、良信弟子三左衛門500疋)
- 4/5・花巻三町の者共、近年不作について拝借の申請
 - ・三町検断黒右衛門、松前様宿勤の普請のため米10駄借用
- 4/8 北万丁目村と西晴山村百姓、困窮により諸役金米定の申請し認可(代官北川清太郎)

【元禄12年・1699】記 載 事 項

- 4/15 国絵図の公儀へ提出後、松井佐太夫と昆喜右衛門盛岡下着
- 5/4 花巻城代、端午の祝儀に湯蕨10把と干鱈3枚を献納
- 5/28 江戸で松川勝右衛門眼病、伴清六看病に出立許可される(翌月10日出立の予定)
- 6/13 和賀川洪水(同8日から4日間の降雨)
- 6/14・江戸上屋敷金奉行交代、田頭太左衛門→照井五右衛門(なお7月21日五右衛門病気で解任、欠端杢右衛門を任命、杢右衛門も病気で解任、7月27日に安一郎右衛門を任命)
・江戸上屋敷台所交代、田代左野左衛門(病氣)→小山田善左衛門
- 6/29 鬼柳通代官交代、照井与五右衛門→奥寺八兵衛
- 7/4 黒沢尻町で男女262人飢え(代官四戸庄助の提出を受け、改め人派遣)
- 7/7 鳥討、花巻は中野十内と雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門
- 7/16 幕府へかたくりの献上(前月29日済み)
- 7/20 郡山・花巻・大迫掬駒に、花坂伝左衛門と帷子仁助を派遣
- 8/2 花巻御境目古人頭高屋権之丞(27石4)、去年より作付できず飢えのため、御米3駄拝借申請
- 9/21 鬼柳代官交代、神尾権太夫→奥(寺カ)孫左衛門
- 9/26 鬼柳通和賀川普請除破損(6月11日の洪水による)、川除普請を百姓ら要請に応じ、普請工事の熟練者を派遣
- 閏9/16 人身売の者、花巻で成敗
- 10/4 和賀川所々繕普請、奉行鈴木伝右衛門と長沼九市郎、閏9月1日～閏9月29日、のべ人足5,350人
- 10/9 花巻本御蔵目付に江刺専右衛門と大光寺彦四郎、新御蔵目付に村木三郎右衛門と鈴木木久左衛門
- 11/1 宗旨改 稗貫郡24,197人、和賀郡25,488人、花巻御町5,188人
- 12/8 不作のため花巻城廻所々普請破損繕、無用
- 12/16 跡目相続 花巻御鳥見和田半左衛門→和田十助(4駄2人扶持) 花巻御給人長坂次郎兵衛→左兵衛(100石)
鈴木三右衛門→蔵松(2人扶持) 中村次郎右衛門→才十郎(100石)
- 12/21 江戸御上屋敷御末鍵交替、蛇口次郎左衛門(病氣)→猪去弥平次
- 12/26 花巻城代、御歳暮に塩引3本と串柿3連を献納

【元禄13年・1700】記 載 事 項 12月29日行信嫡子隼人正実信25歳で病死

- 1/11・代官所を8から4に縮小(1代官1通となる)。 ・万丁目二子通代官に生方次郎兵衛と一方井太郎、
・鬼柳黒沢尻通代官に上山半右衛門と平賀一郎右衛門、 ・安俣高木通代官に矢羽々八右衛門と小原平十郎
- 1/11・八幡寺林通代官に小野寺六郎衛門と小森林与左衛門、 ・大迫代官交代、宮沢源七→村木三郎右衛門
・御舟帯奉行交代、四戸黒作→小野寺惣右衛門 ・鳥討、花巻は雫石弥右衛門、和賀は坂水善右衛門を任命
- 1/19 御助け米、1月14日に寺林通46人、鬼柳通18人へ支給
- 2/8 京都岡崎御番人交代、松川藤右衛門→荒木田惣右衛門(4月20日に人首喜右衛門に交代)
- 2/10 花巻白山寺後住に東久院
- 2/25 鬼柳町、火事で25軒焼失、忠孝札と毒薬札、人売買札、切支丹札、捨高札、伝馬札焼失(札は3月16日に新調)
- 3/3 江戸上屋敷末鍵番交代、猪去弥平次(病氣)→花巻の雫石弥右衛門
- 3/11 花巻と郡山で酒造道具を封印
- 3/21 跡式相続、岩間治右衛門→養子藤助(10駄2人扶持)
- 3/28 花巻外科医交代、折居通慶(江戸屋敷へ赴任)→築田通益派遣
- 4/2 花巻御給人宮守平馬召仕の万吉欠落、伴権内は拘留(町奉行戸来治五右衛門報告)
- 5/3 花巻城代、端午の祝儀に湯蕨10把と干鱈1折を献納
- 5/8 藩主、花巻1泊(4月27日江戸発、5月9日盛岡着)
- 5/15 花巻の立花、黒岩、高瀬の3ヶ所で初鮭取上げ
- 5/21・古切支丹沼野助作次女せん、和賀郡成島村百姓十右衛門妻となり、72歳で死亡、恒例により塩詰め、宗門奉行へ報告
・花巻城代高野庄兵衛、御機嫌窺いに美濃魚2本と若鮎1籠持参(6月6日嶺山五右衛門も焼鮎1鉢と鮎1桶持参)
- 5/25 小荷駄他領出改に、高橋九右衛門と久慈野介を任命
- 6/6・跡式の相続、花巻御給人柏葉清右衛門→清之丞(2人扶持)、佐々木金右衛門→養子久蔵 ・乳井半十郎の婿養子に、奥寺八兵衛弟の善九郎、認可。 ・岩間助右衛門と岩間藤介(同治右衛門養子)、花巻へ移住
- 6/13・御下屋敷御台所役山部嘉左衛門→簡作右衛門 ・岩間藤助、花巻勤めを許可され、2人扶持は花巻で支給
- 6/28 小荷駄番所脇道改に高橋九右衛門と久慈野助
- 7/3 鬼柳三右衛門、御吟味役に任命される

- 【元禄13年・1700】記載事項** 12月29日行信嫡子隼人正実信25歳で病死
- 7/7 花巻鳥討に中野十内、花巻御城廻鳥討に坂水善右衛門、和賀に中野新助を任命
- 7/13 和賀川普請奉行に鬼柳御代官上山半右衛門と平賀一郎右衛門、下奉行は折居兵右衛門と鈴木伝右衛門
- 7/15 公儀御尋人改人に花巻中と御境目通は野々村平馬を任命
- 7/17 撤駒役人石川門之丞と片岸用之助を郡山と花巻、大迫に派遣
- 7/20 和賀川除普請用に、紫野新田の田中川原端にある柴と柳伐採
- 7/25 松川東右衛門、花巻中の当年物成歩付と買米御用に任命。
- 7/26 用儀で松河東右衛門花巻に派遣、その下役として花巻御給人榎引十兵衛、小河治右衛門、柏葉作平、御従太田代伝助を任命
- 8/2 ・花巻本蔵奉行舟超伊助と新渡戸九助→野部地利右衛門と苫部地長左衛門
 ・花巻新蔵奉行浅石清二郎と神山彦四郎→沖源太夫と鈴木伝右衛門
 ・黒沢尻蔵奉行交代、蛇口甚(右)衛門→鈴木伝右衛門
- 8/2 ・郡山蔵奉行交代、舟越清助と神山市内→宮治兵衛と小山田又右門
- 8/3 ・御登米荷組役人に松川藤右衛門を任命 ・花巻へ赴任中の岡友説に、花巻御給人などの治療を指示
- 8/9 花巻町奉行藤根五郎左衛門へ老中(家老)から指令 ①親不幸の科で花巻四日町太郎を成敗 ②一日市三吉は所追放 ③与三郎二郡中 追放の処、立帰り①の太郎への加担で成敗
- 8/10 初菱喰1羽、坂水善右衛門討上げ、四戸茂助組小者と伊藤所左衛門組小者の2人持参、才領中里半兵衛組の足軽1人付添い、道中6日で江戸へ届け(傷があり献上できず)
- 8/11 和賀川除普請終了(7月21日から8月8日まで、延べ人足4600人)
- 8/18 石鳥屋御鳥討の中野十内、初真鶴1羽、献上
- 8/21 花巻給人神山市内、養子金平を離縁(八戸の実父市右衛門へ戻す)
- 9/15 ・立花、黒岩、高瀬3ヶ所の鮭留願ひ、不可 ・中居源右衛門養子、源六(松川忠左衛門次男)病気で離縁
 ・花巻中の羽黒派山伏へ、同年行事の一明院に従うよう、指示。
- 9/16 ・花巻足軽の万三郎(檜山茂右衛門組)、二子通南野で手負いの鴈発見 ・花巻境目通物留改の足軽、高木通浮田村松崎で荷駄を没収
- 9/20 花巻御給人小山田善左衛門弟の左七郎、召出され、大納戸役
- 9/26 前年から封印の糶室解禁、花巻ほか在々へ通達
- 9/27 東大寺大仏再興に、別当竜松院諸国勸進
- 9/30 ・花巻御給人昆小左衛門四男の喜七郎、召出され、御次番(翌春江戸上り) ・花巻御給人川村九郎右衛門、老体につき、盛岡へ(子の大巻喜六引取り)
- 10/9 万丁目通代官交代、生方次郎兵衛(江戸上り)→舟越与兵衛
- 10/19 ・参勤御供の先供、高橋市郎平(高橋藤兵衛子)、四戸庄助、蛇口新平(蛇口次郎左衛門子)
 ・密懐の立川目村嘉左衛門と相手の成敗、花巻町奉行藤根五郎左衛門を呼び、家老指令(同21日成敗)
- 10/21 ・御上屋敷御末賄交代、久慈七右衛門→花巻御給人猪去弥平次
 ・御上屋敷御番に乙部甚平を任命
- 10/22 花巻城交代、高野庄兵衛→奥瀬内蔵助(奥瀬安左衛門を後見役とする)
 (同24高野庄兵衛へ勝手次第引越しの指令、同27日奥瀬へ役料50駄支給)
- 10/23 石鳥屋町酒屋(醸造)交代、藤兵衛→甥で往来宿経営の仁兵衛
- 10/26 領内人口 稗貫郡22,733人、和賀郡27,692人、花巻町5,187人
- 10/27 花巻御役人奥瀬内蔵助・檜山五右衛門、連判を認可(28日より)
- 11/1 貸上げ(献金)の二子町長兵衛へ、褒美に馬乗を許可
- 11/8 通行手形の発行(藩士は御目付、寺社方は御町奉行、百姓は勘勘定所)、鬼柳・山口・黒岩・立花・更木・田瀬・浮田・倉沢の各境番所へ連絡
- 11/21 跡式相続、花巻御給人佐藤長右衛門→友右衛門(50石)、神山彦四郎→宅之助(50石)
- 11/25 花巻御給人松川東右衛門、勤務を評価され現米25駄加増され100石の軍役(検地で畑返しの109石取上げの代わりを含む) ※東右衛門12月1日目見え
- 12/3 花巻御給人小原平十郎(安俵代官)、鹿角姥懐金山奉行に任命される
- 12/5 大迫通外川目村で養父毒殺の次郎助、大迫で火炙の刑
- 12/14 ・安俵代官交代、小原平十郎→太田平七(花巻御給人太田平右衛門子)
- 12/22 ・跡式、花巻与力大沢伝十郎→養子・新助(15石8余) ・花巻御給人照井源右衛門養子に、従兄弟の金兵衛(三戸浪人で伯父の金右衛門次男) ・堀内甚九郎、養子弥次助を実父金田一喜助の介抱に返す
- 12/25 花巻城代、御歳暮に塩引3尺と干蕨10把、串柿3連を献納

【元禄14年・1700】記載事項

- 1/2 花巻給人、大書院で行信公に御目見
- 1/5 隼人正様(泰雲院)法事、聖寿寺で翌6日(同9日遺骨は江戸金地院へ埋葬、)
- 1/28 花巻城代檜山五右衛門、美濃魚2を持参し盛岡に戻る
- 2/9 鳥討、瀬川より南和賀の仙台境まで中野新助、瀬川から北の郡山までは中野十内(同11日鉄砲判渡される)
- 2/11 鬼柳村百姓多兵衛、花巻鍛冶町七右衛門地形出入一件
- 2/14 舟帯奉行長山忠右衛門と小野寺惣右衛門へ、役料年10駄(扶持方・雑事)を支給(暇をみて御登り米とゆり米の御用もつとめること)
- 2/16 花巻川口町清三郎、米片馬盗捕り押さえ
- 2/19 鬼柳代官交代、平賀一郎右衛門(依願免職)→中野金右衛門
- 2/23 小荷駄改に石川門之丞
- 2/25 花巻給人鈴木卯之助養育を料理人鈴木嘉右衛門願上
- 3/1 ・名跡願、花巻御給人藤根六左衛門の次男伊之助
・花巻町奉行藤根五郎左衛門、辞任
・花巻御用書上田弥次郎へ、5駄2人扶持を支給
・手前不如意の坂水善右衛門、養父の又兵衛へ知行所を返し、暇乞い、認可(同19日又兵衛、2人娘のどちらかに婿養子を迎える旨願う)
・花巻城代の申請で、岩崎村立石、煤孫、寺沢の番所を廃止。
・花巻御用医の望月為慶、盛岡に呼び、召出(同8日に2人扶持)
- ・野廻りの鳥見へ、昼扶持1人1日5合から1升到増加(連れの子供には5合上乘せ)
・御次番昆喜七郎、勤務態度と学問熱心を評価、10駄2人扶持
- 3/9 二子村用水普請奉行に柏葉安右衛門を任命
- 3/10 花巻御用医に三浦養迪を任命
- 3/12 花巻町奉行交代、藤根五郎左衛門→太田平右衛門(相手・戸来治五右衛門)
- 3/19 ・金矢甚十郎(3年前から病氣)、花巻へ移住を認可される
・藤根六右衛門子の清八、遂電
- 3/21 松川藤右衛門、京都へ夏茶壺を持たせ派遣の指令
- 3/23 中島権四郎へ、花巻から引っ越しの指令
- 3/26 花巻奉行の役料、25駄となる 注一「花印」では20駄とあり、藩主花巻宿泊の折、北九兵衛から町奉行の戸来治五右衛門と太田平右衛門へ申し渡す
- 3/27 殿様、花巻宿泊(4月6日江戸着、刑部様同行)
- 3/28 勘定大頭目付から御番所判鑑、鬼柳、立花、田瀬、倉沢、黒岩、更木、浮田へ 渡される
- 4/7 ・花巻本蔵奉行小田代又右衛門→中野七右衛門
・二子万丁目通代官一方井庄太郎→小田代又右衛門
- 4/12 ・花巻川口鍛冶町長七、盗人の科度で同11日に成敗
・花巻川口鍛冶町宗伯と与四郎の2人、同11日に打首獄門(花巻番匠小路の座頭女房病死し正庵寺に埋葬、それを掘り起こし死体から衣類を剥ぎ取って岩谷堂に持参していた科による)
- 5/1 藩主次男の七戸刑部、嫡子(同22日若殿と呼称)
- 5/4 花巻城代、端午の祝儀に干鰯3枚と湯煮蕨10把を献納
- 6/2 跡式相続、花巻御給人戸田喜左衛門→喜三郎(10駄2人扶持) 花巻御与力半揚名左衛門→嘉右衛門(12石8)
- 6/8 ・八戸藩主右近様花巻御昼休、丑の刻発駕郡山へ。
・右近様下賜品、花巻役人奥瀬内蔵助と檜山五右衛門、鬼柳代官上山半右衛門と中野金右衛門、鬼柳詰吟味役の佐藤友右衛門、道具奉行金田一八右衛門、御用書照井利助
- 6/28 花巻と郡山の楳駒改に西嶋善右衛門と佐羽内与四郎、大迫と遠野、立花に石川門之丞と平原庄兵衛を派遣
- 7/7 鳥討、花巻城廻は雫石右衛門、花巻北通は中野重内、和賀通は中野新助
- 7/10 公儀へ土用の御機嫌窺いとしてカタクリ献上(6月19日済む)
- 7/19 雫石弥右衛門、花巻御城廻御鳥討を辞任
- 7/30 花巻横志田村と栃内村で草刈場出入り
- 8/14 ・妙泉寺後住
・花巻御給人坂水又兵衛婿養子に鈴木長次郎(同伝右衛門弟)、認可。
・花巻高松寺、大和長谷へ三年住い、許可
- 9/2 ・花巻御給人高屋権之尉へ加増、計37石余
・京都岡崎番人松川東右衛門、藤四郎と改名。
・京都岡崎番人交代、松川東右衛門(花巻で御登米御用)→昆喜七郎
- 9/4 辻運助、郡山の玉山治五右衛門、花巻御給人亀ヶ森六之丞の3人、買米御用(松川東四郎の指図をうける)
- 9/7 北寺林村勘六、手負い鶴を捕え、御褒美に500文
- 9/9 ・安俵通から他領へでる小荷駄の改として春以来派遣中の川口清太夫を解任し花巻城代改の通行証文に切替え
近国の田畑不作により他領の者で不審者は入国を禁止を通達

【元禄14年・1700】記載事項

- 9/10 主税様口郡知行所奉行、簡作右衛門・久慈弥次右衛門を任命
9/14 境目役人、鬼柳境は亀森一郎兵衛、安俵境は湯浅与左衛門
9/20 大迫代官所下宮森二日市の市日、10日、20日、30日の月3回
10/1 花巻川口町嶋野三郎右衛門と上鬼柳村三田善次郎、買米用物書で、刀御免
10/5 来春の江戸上り、上屋敷末鍵番に小野寺惣右衛門(工藤久右衛門と交代)、上屋敷裏門番に藤根五郎左衛門(沢田長左衛門と交代)、上屋敷末賄鍵番に工藤長助(猪去弥平次と交代)、上屋敷 番に太田半次郎と多田三右衛門(工藤久右衛門と乙部甚平と交代)
10/26 宗門改 稗貫郡21564人、和賀郡26449人、花巻町5278人
11/25 公儀買馬29日郡山と花巻通過、道橋と馬屋掃除などを指令
12/2 花巻豊沢川大橋落橋し、上流に仮橋作る・酒値段、諸白1升88文、並酒1升56文
12/3 昆喜右衛門、国絵図御用済みにより目付所に出勤
12/7 鬼柳村五腹院、伝照院と出入りで霞場取上げにもかかわらず、注連と幣束、札守を配布していることを年行事一明院申し出、所追放の処分
12/10 跡式、昆小左衛門→喜右衛門(50石)

【元禄15年・1702】6月18日重信公死去、10月11日藩主行信公死去、12月27日信恩公藩主就任

- 1/11 花巻新蔵奉行交代、沖孫太夫→苦米地久次郎(相手・星川市郎右衛門)
・鳥討、中野重内や同新助らに指令・安俵高木通代官交代、矢羽々八右衛門→宮治兵衛(相役太田平七)
・大迫代官交代、鶴飼二郎左衛門と村木三郎右衛門→鈴木七郎右衛門と下川原利左衛門
・花巻新蔵奉行交代、沖孫太夫→星川市郎右衛門(相役苦米地久治郎)
・舟帯奉行(黒沢尻蔵奉行兼任)に、鈴木伝右衛門と黒沢新太、長山忠右衛門
・村崎野新田は、鬼柳通と万丁目通の両代官で管理(村崎野新田奉行廃止)
1/21 御鳥討の錆判、中野十内・中野新助・目時八兵衛へ交付(4月16日鉄砲錆判差上げ)
1/26 松川藤四郎召仕純平、花巻で金子を拾得
1/28 花巻本蔵奉行交代、野部地利右衛門→大川平右衛門
2/19 三田伝内の遺子、伝三郎へ15駄加増で25駄2人扶持(伝内は前年12月25日田瀬境で米留役勤務中殺害)
米留役人は150石位の藩士に足軽4、5人をつけるべきと江戸から指示(同20日田瀬役人に浦上十太夫・山屋三右衛門・永田善左衛門・大守庄兵衛を任命、足軽2人ずつ)
2/21 花巻御給人煤孫治助へ、江戸登りの指令
2/27 長坂金山御用の小原平十郎へ合力(救助)として金3両を支給
3/7 八幡・万丁目・安俵の3通で鴻・鶴・鴈の鳥討に中野十内と同新助を任命
3/11 花巻へ派遣の医師交代、三浦養迪→生方徳順(翌年3月まで)
3/22 彦次郎様御目見、花巻でも精進料理、御町奉行松田与左門・吟味役鴨沢十兵衛
3/23 八戸藩主右近様、花巻御仮屋出立(4月4日江戸着)
3/24 跡式相続、苦米地長左衛門→久次郎(50石)、藤根六右衛門→伊之介(2人扶持)
4/30 八幡通代官に、奥寺八兵衛を任命(相役小野寺六郎右衛門)
5/3 花巻城代、端午の祝儀に干鱈3枚と湯煮蕨10把を献納(江戸へ飛脚便で送る)
5/5 行信様、鬼柳御仮屋から花巻に到着し宿泊(4月25日江戸発)
5/11 手足不自由の重信様、塔沢で湯治(4月29日幕府の認可、5月23日江戸に戻る)
5/16 花巻城代檜山五右衛門、美鯉2本持参し戻る
5/21 花巻御給人堀内甚九郎、小田嶋源右衛門次男の源之進を婿養子
5/26 花巻で足軽共、城内東方長屋前で6月晦日まで鉄砲の稽古(重信様重体につき稽古中止となる)
5/29 善光寺戒善院、同25日花巻へ到着、広隆寺に宿泊し翌日から2日間開帳
6/1 安俵通で鴈が多く田畑に支障あり、花巻御給人から選抜して鳥討ちの指令(同9日足軽へ指示)
6/11 小原平十郎、鹿角金山奉行を解任される。
6/13 重信様の重信様看病に行信様江戸へ14日出立(15日花巻1泊)
(6月18日重信様病死を須賀川で聞いた行信様、鬼柳で同28日1泊後、花巻には1泊せず、29日盛岡に戻る)
6/28 重信様遺体、6月29日江戸出立、花巻城及び郡山御仮屋清掃の指令(7月11日花巻通過、翌12日盛岡着)
7/1 牧野讃岐様の奥様の使者、前日花巻宿泊・花巻へ越す奥瀬内蔵介、御機嫌窺いに素麺1箱を献納
7/10 土用の御機嫌窺いで公儀へ献上予定のカタクリ粉、献上を忌中で延期(8月21日献上)
8/1 撤駒改に西嶋善右衛門と磯田左介、花巻へ派遣

【元禄 15 年・1702】6 月 18 日重信公死去、10 月 11 日藩主行信公死去、12 月 27 日信恩公藩主就任

8/5 花巻関袋留で初鮭(雌) 1 尺、高木村助左衛門捕獲、江戸へ

8/11 鳥討、石鳥屋通は中野重内、花巻御城廻は中野新助、和賀は雫石弥右衛門

8/16・花巻御城御鷹部屋、大破で役立たず、廃止。柵木は百姓の農閑期に立て直すことを指令。

8/24・故重信様印判・居判、若殿(信恩様)へ同 18 日渡る

・御料理の鈴木嘉右衛門、娘(8 歳)の婿養子に鈴木権八(14 歳、花巻御給人鈴木与惣右衛門次男)

8/25・三田伝次郎、花巻へ転勤願(同 26 日付で認可、甥伝三郎成長の間に限定、扶持は花巻新蔵から支給)

・昆市右衛門(4 駄 2 人扶持)、跡式不可

8/28 堀内源之進(堀内甚九郎養子)、坂水十次郎(坂水又兵衛子)、藩主に目見え

閏 8/5 花巻城代檜山五右衛門妻、花巻で出産後病氣、盛岡から村田道伯を派遣 (同 7 日上野友達と交代)

閏 8/8 黒沢尻物留番交代、土岐五郎左衛門→嘉村喜太夫

9/1・行信様不快、花巻給人佐藤友右衛門を名代に御機嫌伺いに盛岡へ派遣。

・花巻城代檜山五右衛門、妻忌明けで城代職務に戻る

9/2 領内凶作につき酒造、厳禁となる

9/4・昆喜右衛門、江戸から大源院(故重信)位牌を持ち帰る・行信様病氣につき、若殿同 5 日江戸出立(同 12 日盛岡着)・行信様の治療に公儀医者中村玄悦、同 5 日江戸出立(同 15 日花巻で休憩、のち治療で行信様快方にむかったことから 10 月 2 日江戸へ向け盛岡出立)

10/2 公儀医師中村玄悦迎え、花巻御使者に上浦十太夫、鬼柳御使者小山田善左衛門

10/8 跡式、乙部又右衛門→子・甚太郎(25 駄)

10/11 行信様、盛岡城新丸奥居間で病死(61 歳)

10/12 久信(のちの信恩)様の呼称、殿様とする

10/16 辻番の大里庄右衛門、病氣により花巻に戻り療養

11/12 徳雲院(故行信様)の据判、江戸へ送る

11/19 安俵通代官太田平七の親子に雑事代を支給

11/29 公儀馬買、前日花巻 1 泊(翌 12 月 1 日江戸へ出立)

12/6 久信様(のちの信恩)様、藩主継目(同 14 日幕府から認可)

12/7 黒沢尻物留番に、富田定右衛門・勝木藤兵衛・山本嘉右衛門

12/14・松川藤四郎、御買米役を依願辞任

・名跡、半揚七郎右衛門→花巻・小森林与五左衛門

12/12 鐘楼鉛盗人、花巻で病死

12/14・跡式の相続、平賀弥右衛門→一郎右衛門(60 石)、

・名跡の継承、与力簡作十郎→次男長次郎

12/25 凶作で米価高騰、花巻と雫石へ北川新左衛門と奥瀬安左衛門を見廻りに派遣

12/26 花巻城代、歳暮に鮭塩引 3 尺と蕨 10 把、江戸へ献納

12/30 凶作につき、物頭中野忠次郎を花巻へ派遣

【元禄 16 年・1703】記 載 事 項

1/10・御鳥討、花巻御城廻は中野信介(湯沢切、南は豊沢川切)、石鳥谷は中野重内(沢奈川切、南は湯沢切)、和賀通は雫石弥右衛門(豊沢川切、南は御境目)

・江戸役替え、下屋敷台所、菊池平左衛門→佐藤友右衛門

【元禄 16 年・1703】記 載 事 項

1/10・山奉行交代、神山勘太夫→佐々木治兵衛

1/19・鬼柳代官交代、上山半右衛門→藤寺権兵衛

・万丁目代官交代、舟越与兵衛→外岡与兵衛

・大迫代官交代、柄内久右衛門→鈴木惣右衛門

・佐井湊役人に花巻の門屋助右衛門を任命

1/27 公儀から尋ね人照会、花巻の馬町に該当者いない旨回答

2/4 京都絵岡崎番人交代、昆喜七郎→柴内作右衛門

2/15・病気の小山田善兵衛、養子に同善左衛門次男の平介、認可。

・大迫百姓申立て、獵師渡世に雉・鴈子の討取りを認可。

2/22 花巻御給人鬼柳御番所勤務、凶年で難儀により 3 駄 2 人扶持方支給、花巻城代奥瀬内蔵介と檜山五右衛門申請し、借遣扱いで支給を認可(目付松岡内蔵尉の指示)

2/25 故重信と行信様遺品形見分け、探幽筆立田山1幅、永真筆三保の松原1幅、八景和歌公家寄合書と三十六歌仙屏風1双など

2/30 跡式、金田一八助→同市之尉

3/22・勘定頭に細越嘉右衛門と花巻御給人長沼治五右衛門を任命

・郡山と大迫御蔵改に舟超井兵衛、花巻両御蔵と黒沢尻蔵改に工藤左五介を派遣

3/22 中島権四郎、江戸中屋敷勘定役を解任され花巻で遠慮の処分

(4月1日赦免されて復帰、同23日再度遠慮の処分をうけ亀ヶ森六之丞家預かり)

3/23・伊藤庄右衛門名跡、病気の庄蔵→庄作子の庄三郎(成長までは末っ子五郎兵衛が番代を勤める)

・柏葉安右衛門名跡に、同源左衛門嫡孫の左兵衛

・上田覚内、苦米地久内、三田文右衛門、高橋源四郎の名跡、認可

3/29 花巻から赴任の勘定頭長沼治五右衛門へ当分5人扶持を支給

4/3 大迫代官交代、下河原利左衛門(辞任)→檜山弥次右衛門

4/6 昆喜右衛門、吟味役に任命される

4/7 嶽妙泉寺の後住の変更、蓮花院→中台院

4/9・渋民町43軒焼失、制札も全て焼失

・江戸末番人交代、村上勘兵衛→宮野与左衛門

4/20 大迫代官交代、鈴木七郎右衛門→石亀権左衛門

5/3・花巻御足軽飛脚番

・花巻城代檜山五右衛門、干鰯3枚と湯蕨10把を献納

5/9・高木通代官交代、太田平七→平賀一郎右衛門

・万丁目代官交代、小田代又右衛門→小山田善左衛門

・鬼柳代官交代、四戸黒作→藤根五郎左衛門

・花巻本蔵奉行交代、中野七右衛門→小野寺山三郎

・花巻新蔵奉行交代、菊地久内→江刺ヶ(家)平吉

・黒沢尻蔵奉行交代、鈴木伝右衛門と長山忠右衛門→神山市内

・舟帯奉行に玉山久内、長山忠右衛門、富沢六左衛門を任命

5/12 花巻御給人金矢甚十郎へ扶持証文交付(花巻蔵から扶持方支給)

5/18 鬼柳代官交代、遠(藤)寺権兵衛→西川小右衛門

5/26 殿様、前日花巻1泊(同15日江戸発、同26日盛岡着)

6/1 改名、長坂源二郎→市兵衛、花巻御給人長坂次郎兵衛→十太夫、高橋一郎兵衛→多右衛門、永井二郎助→理平次、柏葉左兵衛→三右衛門

6/3・平賀一郎右衛門・柏葉左兵衛(安右衛門子)、小守林七郎右衛門(与五左衛門子)、藩主に目見え

・大迫町与市郎、たばこと鯛を献納

6/4 花巻町奉行交代、戸来五右衛門と太田平右衛門→伊藤次郎右衛門と宮杜平馬

6/10 花巻与力沢田六郎右衛門子、喜平、御用の間に召出される。

6/16・黒沢尻物留番人へ支給の役料米、取上げとなる。

・安俵通代官交代、宮治兵衛→根城太郎左衛門

6/25 松林寺地蔵祭礼、同23日済む、警固に伊藤二郎右衛門と代官小野寺六郎右衛門を派遣。

【元禄16年・1703】記載事項

6/27・花巻城交代、奥瀬内蔵助(辞任)→奥瀬内記(御用人を兼帯)

・盛岡会所で松川藤四郎、北川新左衛門一門に組したことから内堀民部に預けとなる(同28日兄の忠左衛門は遠慮の申請を却下)

7/1 北上川大留は老中連判、その他の枝川や築簀留、堀受けなどは花巻城代手判許可、運上金は以前の通り御用人まで納入

7/3 土用御機嫌窺いにかたくりを公儀へ6月17日献上

7/6 花巻城代奥瀬内蔵、美鯉1本と鮎1持参

7/7・ニヶ村甚右衛門、小田代又右衛門、新渡戸平助(九助子)、花巻与力才藤久助、藩主に目見え

・谷内村権現堂大破で、杉大木20本の伐採、認可される。

7/7 鳥討、石鳥谷通は中野重内、花巻御城廻は中野新助、和賀通は雫石弥右衛門

7/11・万丁目代官交代、外岡与兵衛→刈屋武介

・振駒に、郡山・花巻は西嶋善右衛門、花巻町・村崎野は村上安右衛門を派遣、

7/17 花巻御蔵奉行交代、大川平右衛門→村上勘兵衛

- 7/19 上田覚内の名跡に弟万吉
- 7/21 殿様入部祝いの松前藩使者に、かたくり粉1箱を持たせる
- 7/22 仙人別当で山口村の和光院(羽黒派山伏)、和賀・沢内通から追放の処分、本山派山伏 一明院
から花巻年行事職取上げる(後任は盛岡穀町定覚院) 本山派・霞場、羽黒派・丹那場
- 7/28 藩主に目見え、浅水忠兵衛、伊藤庄蔵、上田万吉、花巻与力名須川藤左衛門、同名 須川吉左衛
門
- 8/7 花巻医師の跡式、村岡友説→同七之尉(のち的広と改名、3人扶持、医師稽古の上勤務)
- 8/15 石鳥谷鳥見交代、瀬川儀右衛門(和賀通鳥見)→同長九郎
- 8/19 花巻城代檜山五右衛門、茂右衛門と改名し、肴1折献納。
- 8/22 松川東四郎の子供、幸太郎・忠蔵、長坂十太夫・獅子内兵部に預け(6月28日から花巻 本蔵か
ら2人扶持ずつ支給)
- 8/23 前年夏北上川で川狩中の花巻御給人子息と川口町町人喧嘩の処置
→一方井嘉介は不調法の処家督相続は認可、嘉介弟の武六は抜刀し加害、盛岡と 花巻から追放
の処分、小屋敷清之介と大湯才一郎(立花境番所勤務)は武六と同様の追 放刑、獅子内弥兵衛(立花境番所相
役)は遠慮の処分を免除、川口町町人2人は他領追放
- 8/28 村岡的広と花巻与力大沢新助、藩主に目見え
- 9/13・中島権四郎、遠慮御免、花巻で出仕となる
・江戸惣勘定改の昆喜右衛門、勤務評価で100石(25駄加増)
- 9/17・花巻新蔵奉行交代、星川一郎右衛門→船越清助
・大迫蔵奉行交代、鈴木惣右衛門→多田小右衛門
- 9/23・花巻観音堂、大破につき建立の勧進
・跡式、小屋敷金兵衛→養子伝蔵(実は工藤半右衛門弟)
・名跡、大湯才五郎→同八之尉(兄才一郎追放に伴い)
・花巻城代檜山茂右衛門、盛岡下小路屋敷を返し別屋敷を申請
(同27日もと松田治右衛門屋敷を拝領、当番で花巻に居る茂右衛門へ連絡)
- 9/27 相州藤沢上人依願、花巻光林寺へ勅額下る
- 10/1 高橋瀬兵衛、藩主に目見え
- 10/10・花巻本蔵目付に江刺千右衛門を任命
- 10/10・花巻目覆荷組奉行に台十郎兵衛と石橋五右衛門を任命
・花巻御新蔵目付に浪岡吉右衛門を任命
・黒沢尻蔵目付に田中久太夫を任命
・大迫御蔵目覆奉行に宮治兵衛を任命
- 10/18 花巻御給人隼石弥右衛門、柿1箆藩主に献上(重信代に柿古木を預かり大風で倒れたものの、手入れて枝
が出て 初収穫による)
- 11/9 跡目相続、小山田善兵衛→同平助(6駄2人扶持、12月5日花巻へ引っ越し出仕)
- 11/9 花巻から召出した中島源内へ、勤務評価で切米5駄支給
- 11/13・花巻町奉行交代、伊藤次郎右衛門(病気)→藤根五郎左衛門

【元禄16年・1703】記 載 事 項

- 11/13・伊藤二郎右衛門養子に小野寺山三郎次男の勝之丞、認可。
- 11/21 花巻城代奥瀬内記、つぶ1鉢とせり1鋪持参し戻る
- 12/5 花巻城代交代、奥瀬内記(江戸へ派遣)→日戸五兵衛
- 12/15 松林寺子安地藏建立の奉加、花巻城代へ指示(別当六位と相對)
- 12/19 花巻の虚無僧宗清、花巻と盛岡中の虚無僧惣支配、認可。
- 12/22 近江商人で盛岡六日町幾久屋吉右衛門、備前有光脇差を献納
- 12/26・花巻城代、御歳暮に披3枚・干蕨10把・串柿10連を献納
・沢田喜兵衛、身帯役物書に任命(花巻城代へ書状)

【元禄17年・1704】記 載 事 項

- 1/6・小山田平助(同善兵衛子)、藩主に目見え
・花巻城代檜山茂右衛門、雑唯1鉢持参し戻る
- 1/11 江戸台所交代、斗内清五郎→奥寺八兵衛
- 1/12 鳥討役に、石鳥谷は中野新介(花巻御城廻り半分円万寺切)、和賀通は隼石弥右衛門(花巻御城廻り半

分ひわケ沢切)

- 1/13・4代官所から8代官所に戻り、各2名の代官任命
 - 寺林通代官に石井与五郎と江刺専右衛門を任命
 - 二子通代官に阿部定右衛門と金田一八右衛門を任命
 - 万丁目通代官交代、小山田善兵衛→奥寺弥兵衛(相役刈屋武助)
 - 黒沢尻代官に宮手茂兵衛と一方井庄太郎を任命
 - 安俵通代官に伊藤一郎兵衛と根城太郎左衛門を任命
 - 鬼柳通代官に神山彦右衛門と西川小右衛門を任命
 - ・花巻新蔵奉行交代、舟越清介→田鍍源左衛門
 - ・黒沢尻蔵奉行交代、黒沢新六と小野寺惣右衛門→大森庄兵衛と菊池八右衛門
 - ・郡山蔵奉行交代、神山彦右衛門→玉山治五右衛門
 - ・舟帯奉行交代、長山忠右衛門→太田源四郎
 - ・花巻川口町治右衛門、加賀家次刀1腰、鱈、手樽(酒カ)を献納(同15日子の甚兵衛藩主に目見えし、褒美に銀子10枚下賜)
 - 2/1 大迫代官交代、檜山弥二右衛門→葛西市右衛門
 - 2/4 長沼治右衛門、黒沢喜兵衛と交代するため、江戸へ上り
 - 2/5 跡式、上田喜兵衛→同兵内(4駄2人扶持)
 - 2/10 花巻城代日戸五兵衛、花巻から戻り美濃魚2献納
 - 2/21・花巻瑞興寺、本寺へ住番につき、蔵米5駄借用
 - ・丹内村観音堂別当へ、観音堂建立につき米10駄支給
 - ・神山多助の惣結を認可(花巻城代日戸五兵衛に申渡す)
 - ・昆喜右衛門、御吟味役解任され、もと高屋四郎左衛門組長柄を預かり
 - ・檜山七左衛門知行所堀切村源右衛門、無断で酒造りと商売の科で他領追放
 - 2/23 殿様、花巻へ申の上刻勇健御着(24日卯の下刻出立)
 - 2/25 若殿(岩次郎)3歳で同18日病死(院号・青雲院)
 - 2/26 花巻城代及び同所給人の名代として煤孫治助、お悔みに盛岡へ参上
 - 3/9・跡式、蛇口次郎左衛門→同新平(50石)、大湯才五郎→同八兵衛(3駄2人扶持)
 - ・伊藤庄蔵婿養子に成島村小次郎、吟味申付け
 - ・梅木助右衛門嫡孫に、立花村久太郎、認可。
 - 3/11 内堀民部預りの松川藤四郎病氣(風邪)、治療に村田道伯を派遣。
 - 3/20 花巻の治療医交代、生方徳順→太田道仙
 - 3/23 殿様、花巻1泊(翌日出立、4月3日江戸着)
 - 3/28 勅額下賜の寺林の光林寺、下馬札を申請
 - 4/5 花巻立花留下、大綱運上で不届きの瀬主入牢
 - 4/10 松川藤四郎の預け先変更、内堀民部→三戸御給人一戸五右衛門
 - 4/11 松川藤四郎妻と3人の子供、幸太郎(13歳)・忠蔵(12歳)・兵三郎(2歳)、花巻の兄 忠左衛門預かる(花巻吟味役高橋多右衛門の監視)
- 【元禄17年・1704】記載事項→3月13日以降、宝永元年→
- 4/11 台で湯治中の御袋様御用に、花巻城代日戸五兵衛担当、台御仮屋の警備など花巻同心で勤めることを指令(同13日から同21日まで御袋様台に滞在)
 - 4/22 黒沢尻物留番人交代、佐藤甚之丞(病死)→山田太郎兵衛
 - 4/28・跡式、神山六兵衛→子七郎介(50石)
 - ・切米は、夏は5月晦日まで、暮れは12月晦日までに受領を指示
 - 5/3 花巻城代、端午の祝儀に干鱈3枚と干蔵5把を献納
 - 5/4 郡山原町の瓦焼六太夫、材木の切り過ぎにより、会津へ返す
 - 5/9 八戸藩主右近様、花巻昼休み、郡山1泊(同15日八戸着)
 - 5/19 薬用に供する鶴と鴻の捕獲、花巻は雫石弥右衛門、石鳥谷は中野新助に指令
 - 6/12 和賀谷内村権現堂造営、竣工(6月17日遷宮式)
 - 6/30 猟師鉄砲錆返納、和賀郡晴山村茂左衛門、十二ヶ村長右衛門、安俵村長三郎、稗貫郡高松村助四郎、矢沢村惣左衛門と金右衛門
 - 7/3 左近様(後の利幹)料理役交代、江繫与九郎→佐々木金右衛門
 - 7/7・御鳥討、石鳥谷は中野新介(花巻御城廻半分円万寺切)、和賀通は雫石弥右衛門(花巻御城廻半分ひわか沢

- 切) ・掖駒に西嶋善右衛門と切田清六を花巻へ派遣
- 7/18 大迫蔵奉行交代、多田小右衛門→大釜彦右衛門
- 7/22 花巻年行事一明院、盛岡で事情聴取後出奔、後任の定覚院に山伏小路のもと一
- 7/24 立花番人佐藤甚平・戸田喜左衛門手形持参の福岡村久五郎へ、仙台から買った
上田番所で役銭を課す
- 8/17 花巻観音堂再興(同 15 日遷宮式、初尾を花巻町奉行宮森平馬持参する)
- 8/25 黒沢尻唐船番人交代、小野七郎兵衛→藤根清左衛門
- 9/2 鬼柳三右衛門、台で湯治休暇
- 9/17 江戸番人交代、宮野与左衛門→阿部助太夫
- 10/3 ・花巻御蔵目付に鴨沢文七、花巻目覆奉行に梁田平内と金田一彦右衛門、花巻新
兵衛 蔵目付に中嶋才
- ・黒沢尻蔵目付に加村喜太夫、同日覆奉行に豊川又左衛門
 - ・大迫蔵目付に中市基吉右衛門を任命
- 10/4 八戸藩に出仕の鴨沢善右衛門(もと坂水又兵衛養子)、八戸へ移住
- 10/3 花巻御蔵目付に鴨沢文七
- 10/7 花巻両蔵奉行に平沢万右衛門、高橋瀬兵衛、小野寺孫左衛門を任命
(暮れに江戸廻米荷組奉行を兼任する)
- 10/20 安俵通成島村百姓六郎右衛門、熟柿を御袋様に献納
- 10/21 松前志摩守、郡山昼休み、花巻 1 泊
- 10/28 宗旨改、稗貫郡 30, 194 人、和賀郡 26, 764 人(花巻町人口は不明)
- 11/5 翌年の江戸留守居に下田覚左衛門と日戸五兵衛を任命
- 11/25 ・江戸詰の勘定頭長沼治五右衛門、翌年 3 月杉田平助と交代
- ・勝手不如意の狩野休山、加増され 5 人扶持から 10 人扶持
- 12/7 花巻の鴨沢与右衛門へ、祐筆として翌年春江戸上りの指令
- 12/9 ・跡式、花巻御給人戸来治五右衛門→婿養子熊之助(実は奥寺孫兵衛次男、50 石)、
- ・跡式、花巻与力那須川(名須川)茂左衛門→小兵衛(50 石)
- 12/21 花巻城交代、日戸五兵衛(江戸留守居)→松岡藤右衛門(奥瀬内記江戸から戻るまで)
- 12/26 花巻城代、御歳暮に鮭披 3 ・湯蕨 10 把 ・串柿 10 連を献納